



## レイヤ3仮想化の設定

この章では、レイヤ3仮想化の設定手順について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [レイヤ3仮想化について](#) (1 ページ)
- [VRF の注意事項と制約事項](#) (4 ページ)
- [VRF-Lite の注意事項と制限事項](#) (5 ページ)
- [VRF ルートリーフの注意事項と制約事項](#) (5 ページ)
- [デフォルト設定](#) (6 ページ)
- [VRF の設定](#) (6 ページ)
- [VRF の設定の確認](#) (13 ページ)
- [VRF の設定例](#) (13 ページ)

### レイヤ3仮想化について

#### レイヤ3仮想化の概要

Cisco NX-OS は、仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスをサポートしています。各 VRF には、IPv4 に対応するユニキャストおよびマルチキャストルートテーブルを備えた、独立したアドレス空間が 1 つずつあり、他の VRF と無関係にルーティングを決定できます。

ルータごとに、デフォルト VRF および管理 VRF があります。すべてのレイヤ3インターフェイスおよびルーティングプロトコルは、ユーザが別の VRF に割り当てない限り、デフォルト VRF に存在します。mgmt0 インターフェイスは、管理 VRF 内に存在します。スイッチは、VRF-Lite 機能を使用して、カスタマー エッジ (CE) スイッチで複数の VRF をサポートします。VRF-Lite によって、サービス プロバイダーは 1 つのインターフェイスを使用して、重複する IP アドレスを持つ複数の仮想プライベート ネットワーク (VPN) をサポートできます。



(注) スイッチでは、VPN のサポートのためにマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) が使用されません。

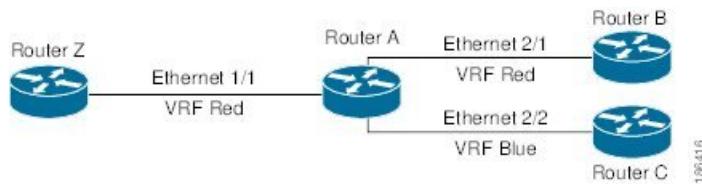
## VRF およびルーティング

# VRF およびルーティング

すべてのユニキャストおよびマルチキャストルーティングプロトコルはVRFをサポートします。VRFでルーティングプロトコルを設定する場合は、同じルーティングプロトコルインスタンスの別のVRFのルーティングパラメータに依存しないルーティングパラメータをそのVRFに設定します。

VRFにインターフェイスおよびルーティングプロトコルを割り当てることによって、仮想レイヤ3ネットワークを作成できます。インターフェイスが存在するVRFは1つだけです。次の図は、1つの物理ネットワークが2つのVRFからなる2つの仮想ネットワークに分割されている例を示しています。ルータZ、A、およびBは、VRF Redにあり、1つのアドレスドメインを形成しています。これらのルータは、ルータCが含まれないルートアップデートを共有します。ルータCは別のVRFで設定されているからです。

図1:ネットワーク内のVRF



デフォルトで、着信インターフェイスのVRFを使用して、ルート検索に使用するルーティングテーブルを選択します。ルートポリシーを設定すると、この動作を変更し、Cisco NX-OSが着信パケットに使用するVRFを設定できます。

VRFはVRF間のルートリーク（インポートまたはエクスポート）をサポートします。いくつかの制限が、VRF-Liteのルートリークに適用されます。詳細については、[VRFルートリークの注意事項および制約事項](#)のセクションを参照してください。

## VRF-Lite

VRF-Liteの機能によって、サービスプロバイダーは、VPN間で重複したIPアドレスを使用できる複数のVPNをサポートできます。VRF-Liteは入力インターフェイスを使用して異なるVPNのルートを区別し、各VRFに1つまたは複数のレイヤ3インターフェイスを対応付けて仮想パケット転送テーブルを形成します。VRFのインターフェイスは、イーサネットポートなどの物理インターフェイス、またはVLAN SVIなどの論理インターフェイスにすることができますが、レイヤ3インターフェイスは、一度に複数のVRFに属することはできません。



(注) VRF-Liteの実装では、マルチプロトコルラベルスイッチング(MPLS)およびMPLSコントロールプレーンはサポートされません。



(注) VRF-Liteインターフェイスは、レイヤ3インターフェイスである必要があります。

## VRF認識サービス

Cisco NX-OS アーキテクチャの基本的な特徴として、すべての IP ベースの機能が VRF を認識することができます。

次の VRF 認識サービスは、特定の VRF を選択することにより、リモートサーバへの接続や、選択した VRF に基づいた情報のフィルタリングを可能にします。

- AAA
- Call Home
- HSRP
- HTTP
- ライセンス
- NTP
- RADIUS
- Ping とトレースルート
- SSH
- SNMP
- Syslog
- TACACS+
- TFTP
- VRRP

各サービスで VRF サポートを設定する詳細については、各サービスの適切なコンフィギュレーションガイドを参照してください。

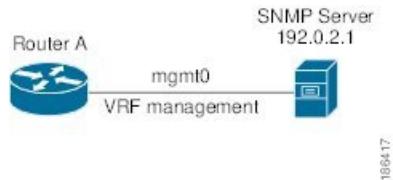
## Reachability

到達可能性は、サービスを提供するサーバに到達するために必要なルーティング情報がどの VRF にあるかを示します。たとえば、管理 VRF で到達可能な SNMP サーバを設定できます。ルータにサーバアドレスを設定する場合は、サーバに到達するために Cisco NX-OS が使用すべき VRF も設定します。

次の図は、管理 VRF を介して到達可能な SNMP サーバを示しています。SNMP サーバホスト 192.0.2.1 には管理 VRF を使用するように、ルータ A を設定します。

## ■ フィルタリング

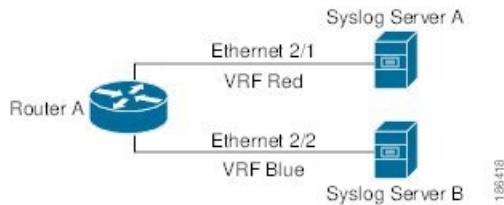
図2:サービスVRFの到達可能性



## フィルタリング

フィルタリングにより、VRFに基づいてVRF認識サービスに渡される情報のタイプを制限できます。たとえば、Syslogサーバが特定のVRFをサポートするように設定できます。次の図は、それぞれが1つのVRFをサポートしている2つのsyslogサーバーを示しています。syslogサーバAはVRF Redで設定されているので、Cisco NX-OSはVRF Redで生成されたシステムメッセージだけをsyslogサーバAに送信します。

図3:サービスVRFのフィルタリング

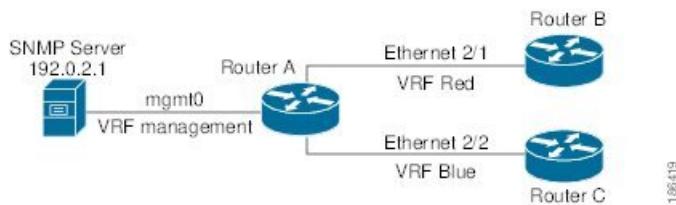


## 到達可能性とフィルタリングの組み合わせ

VRF認識サービスの到達可能性とフィルタリングを組み合わせることができます。サービスに接続するためにCisco NX-OSが使用するVRFとともに、そのサービスがサポートするVRFも設定できます。デフォルトVRFでサービスを設定する場合は、任意で、すべてのVRFをサポートするようにサービスを設定できます。

次の図は、管理VRFを介して到達可能なSNMPサーバを示しています。たとえば、SNMPサーバがVRF RedからのSNMP通知だけをサポートするように設定できます。

図4:サービスVRFの到達可能性とフィルタリング



## VRFの注意事項と制約事項

VRFにはVRF Liteのシナリオにおいて次の設定の注意事項と制約事項があります:

- ・インターフェイスを既存のVRFのメンバにすると、Cisco NX-OSはあらゆるレイヤ3設定を削除します。VRFにインターフェイスを追加したあとで、すべてのレイヤ3パラメータを設定する必要があります。
- ・管理 VRF に mgmt0 インターフェイスを追加し、そのあとで mgmt0 の IP アドレスおよびその他のパラメータを設定します。
- ・VRF が存在しないうちに VRF のインターフェイスを設定した場合は、VRF を作成するまで、そのインターフェイスは運用上のダウンになります。
- ・Cisco NX-OS はデフォルトで、デフォルトと管理 VRF を作成します。mgmt0 は管理 VRF のメンバにする必要があります。
- ・**write erase boot** コマンドを実行しても、管理 VRF の設定は削除されません。**write erase** コマンドを使用してから **write erase boot** コマンドを使用する必要があります。

## VRF-Lite の注意事項と制限事項

VRF-lite には、次の注意事項と制限事項があります。

- ・VRF-lite を備えたスイッチは、各 VRF に対してそれぞれ、グローバル ルーティング テーブルとは異なる IP ルーティング テーブルを持ちます。
- ・VRF-lite が異なる VRF テーブルを使用するため、同じ IP アドレスを再利用できます。別々の VPN では IP アドレスの重複が許可されます。
- ・VRF-Lite では、一部の MPLS-VRF 機能（ラベル交換、またはラベル付きパケット）がサポートされていません。
- ・複数の仮想レイヤ3インターフェイスを VRF-lite スイッチに接続できます。
- ・スイッチでは、物理ポートか VLAN SVI、またはその両方の組み合わせを使用して、VRF を設定できます。SVI は、アクセス ポートまたはトランク ポートで接続できます。
- ・VRF-lite は、BGP、スタティック ルーティングをサポートします。
- ・VRF-lite は、Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) をサポートしません。
- ・VRF-Lite は、パケットスイッチング レートに影響しません。
- ・マルチキャストを同時に同一のレイヤ3インターフェイス上に設定することはできません。

## VRF ルート リークの注意事項と制約事項

VRF ルート リークには次の注意事項と制約事項があります。

## ■ デフォルト設定

- ルートリリークはデフォルト以外の2つのVRF間でサポートされます。また、デフォルトVRFと任意の他のVRF間でもサポートされます。
- デフォルトVRFへのルートリリークは、グローバルVRFであるため使用できません。
- 指定したIPアドレスにマッチするルートマップのフィルタを使用して、特定のルートに対してルートリリークを制限できます。
- デフォルトでは、リークできるIPプレフィックスの最大数は1000ルートに設定されています。この数値は0から1000までの任意の値に設定できます。
- VRFルートリリークにはEnterpriseライセンスが必要で、BGPをイネーブルにする必要があります。

## デフォルト設定

次の表は、VRFパラメータのデフォルト設定をまとめたものです。

表1: デフォルトのVRFパラメータ

パラメータ	デフォルト
設定されているVRF	デフォルト、管理
ルーティングコンテキスト	デフォルトVRF

## VRFの設定

### VRFの作成

スイッチにVRFを作成できます。

#### 手順の概要

- configure terminal**
- vrf context name**
- ip route { ip-prefix | ip-addr ip-mask } {[ next-hop | nh-prefix ] | [ interface next-hop | nh-prefix ]} [ tag tag-value [ pref ]]**
- (任意) **show vrf [ vrf-name ]**
- (任意) **copy running-config startup-config**

## 手順の詳細

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure terminal</b>  例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ2	<b>vrf context name</b>  例： <pre>switch(config)# vrf context Enterprise switch(config-vrf)#</pre>	新しいVRFを作成し、VRF設定モードを開始します。 <b>name</b> は、32文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
ステップ3	<b>ip route { ip-prefix   ip-addr ip-mask } {[ next-hop   nh-prefix ]   [ interface next-hop   nh-prefix ]} [ tag tag-value [ pref ]]</b>  例： <pre>switch(config-vrf)# ip route 192.0.2.0/8 ethernet 1/2 192.0.2.4</pre>	スタティックルートおよびこのスタティックルート用のインターフェイスを設定します。任意でネクストホップアドレスを設定できます。 <i>preference</i> 値でアドミニストレーティブディスタンスを設定します。範囲は1～255です。デフォルトは1です。
ステップ4	(任意) <b>show vrf [ vrf-name ]</b>  例： <pre>switch(config-vrf)# show vrf Enterprise</pre>	VRF情報を表示します。
ステップ5	(任意) <b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch(config-vrf)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

## 例

VRFおよび関連する設定を削除するには、**no vrf context**コマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>no vrf context name</b>  例： <pre>switch(config)# no vrf context Enterprise</pre>	VRFおよび関連するすべての設定を削除します。

グローバル設定モードで使用できるコマンドはすべて、VRF設定モードでも使用できます。

次に、VRFを作成し、VRFにスタティックルートを追加する例を示します。

## ■ インターフェイスへのVRFメンバーシップの割当て

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf context Enterprise
switch(config-vrf)# ip route 192.0.2.0/8 ethernet 1/2
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# copy running-config startup-config
```

# インターフェイスへのVRFメンバーシップの割当て

インターフェイスをVRFのメンバにできます。

### 始める前に

VRF用のインターフェイスを設定したあとで、インターフェイスにIPアドレスを割り当てます。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface interface-type slot/port**
3. **vrf member vrf-name**
4. **ip address ip-prefix/length**
5. **show vrf vrf-name interface interface-type number**
6. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config) #	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	<b>interface interface-type slot/port</b> 例： switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if) #	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ3	<b>vrf member vrf-name</b> 例： switch(config-if) # vrf member RemoteOfficeVRF	このインターフェイスをVRFに追加します。
ステップ4	<b>ip address ip-prefix/length</b> 例： switch(config-if) # ip address 192.0.2.1/16	このインターフェイスのIPアドレスを設定します。 このステップは、このインターフェイスをVRFに割り当てたあとに行う必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ5	<b>show vrf vrf-name interface interface-type number</b>  例： <pre>switch(config-if)# show vrf Enterprise interface ethernet 1/2</pre>	VRF情報を表示します。
ステップ6	<b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch(config-if)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

**例**

次に、VRFにインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF
switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/16
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## ルーティングプロトコル用のVRFパラメータの設定

1つまたは複数のVRFにルーティングプロトコルを関連付けることができます。ルーティングプロトコルに関するVRFの設定については、該当する章を参照してください。ここでは、詳細な設定手順の例として、OSPFv2プロトコルを使用します。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router ospf instance-tag**
3. **vrf vrf-name**
4. (任意) **maximum-paths paths**
5. **interface interface-type slot/port**
6. **vrf member vrf-name**
7. **ip address ip-prefix/length**
8. **ip router ospf instance-tag area area-id**
9. (任意) **copy running-config startup-config**

## ルーティングプロトコル用のVRFパラメータの設定

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure terminal</b>  例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	<b>router ospf instance-tag</b>  例： <pre>switch(config)# router ospf 201 switch(config-router)#</pre>	新規OSPFv2インスタンスを作成して、設定済みのインスタンスタグを割り当てます。
ステップ3	<b>vrf vrf-name</b>  例： <pre>switch(config-router)# vrf RemoteOfficeVRF switch(config-router-vrf)#</pre>	VRF設定モードを開始します。
ステップ4	(任意) <b>maximum-paths paths</b>  例： <pre>switch(config-router-vrf)# maximum-paths 4</pre>	このVRFのルートテーブル内の宛先への、同じOSPFv2パスの最大数を設定します。ロードバランシングに使用されます。
ステップ5	<b>interface interface-type slot/port</b>  例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ6	<b>vrf member vrf-name</b>  例： <pre>switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF</pre>	このインターフェイスをVRFに追加します。
ステップ7	<b>ip address ip-prefix/length</b>  例： <pre>switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/16</pre>	このインターフェイスのIPアドレスを設定します。このステップは、このインターフェイスをVRFに割り当たあとに行う必要があります。
ステップ8	<b>ip router ospf instance-tag area area-id</b>  例： <pre>switch(config-if)# ip router ospf 201 area 0</pre>	このインターフェイスをOSPFv2インスタンスおよび設定エリアに割り当てます。
ステップ9	(任意) <b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch(config-if)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

**例**

次に、VRFを作成して、そのVRFにインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf context RemoteOfficeVRF
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# router ospf 201
switch(config-router)# vrf RemoteOfficeVRF
switch(config-router-vrf)# maximum-paths 4
switch(config-router-vrf)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF
switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/16
switch(config-if)# ip router ospf 201 area 0
switch(config-if)# exit
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## VRF認識サービスの設定

VRF認識サービスの到達可能性とフィルタリングを設定できます。VRF用サービスの設定手順を扱っている、該当する章またはコンフィギュレーションガイドへのリンクについては、[VRF認識サービス](#)のセクションを参照してください。ここでは、サービスの詳細な設定手順の例として、SNMPおよびIPドメインリストを使用します。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **snmp-server host ip-address [filter-vrf vrf-name] [use-vrf vrf-name]**
3. **vrf context vrf-name**
4. **ip domain-list domain-name [all-vrfs][ use-vrf vrf-name ]**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure terminal</b> 例： <pre>switch# configure terminal switch(config) #</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	<b>snmp-server host ip-address [filter-vrf vrf-name] [use-vrf vrf-name]</b> 例： <pre>switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 use-vrf Red</pre>	グローバルSNMPサーバを設定し、サービスに到達するためにCisco NX-OSが使用するVRFを設定します。選択したVRFからこのサーバへの情報をフィルタリングするには、 <b>filter-vrf</b> キーワードを使用します。

## VRFスコープの設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	<b>vrf context vrf-name</b>  例： <pre>switch(config)# vrf context Blue switch(config-vrf) #</pre>	新しいVRFを作成します。
ステップ4	<b>ip domain-list domain-name [ all-vrfs ][ use-vrf vrf-name ]</b>  例： <pre>switch(config-vrf) # ip domain-list List all-vrfs use-vrf Blue</pre>	VRFでドメインリストを設定し、必要に応じて、リスト内のドメイン名に到達するためにCisco NX-OSが使用するVRFを設定します。
ステップ5	(任意) <b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch(config-vrf) # copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

### 例

次の例は、VRF Red上の到達可能なSNMPホスト192.0.2.1に、すべてのVRFのSNMP情報を送信する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 for-all-vrfs use-vrf Red
switch(config)# copy running-config startup-config
```

次に、VRF Redで到達可能なSNMPホスト192.0.2.12に対して、VRF BlueのSNMP情報をフィルタリングする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf definition Blue
switch(config-vrf)# snmp-server host 192.0.2.12 use-vrf Red
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## VRFスコープの設定

すべてのEXECコマンド(**show**コマンドなど)には、対応するVRFスコープを設定できます。VRFスコープを設定すると、EXECコマンド出力のスコープが設定されたVRFに自動的に限定されます。このスコープは、一部のEXECコマンドで使用できるVRFキーワードによって上書きできます。

VRFスコープを設定するには、EXECモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>routing-context vrf <i>vrf-name</i></b> 例： <pre>switch# routing-context vrf redswitch%red#</pre>	すべての EXEC コマンドに対応するルーティングコンテキストを設定します。デフォルトのルーティングコンテキストはデフォルト VRF です。

デフォルトの VRF スコープに戻すには、EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>routing-context vrf default</b> 例： <pre>switch# routing-context vrf default</pre>	デフォルトのルーティングコンテキストを設定します。

## VRF の設定の確認

VRF の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
<b>show vrf [<i>vrf-name</i>]</b>	すべてまたは 1 つの VRF の情報を表示します。
<b>show vrf [<i>vrf-name</i>] detail</b>	すべてまたは 1 つの VRF の詳細情報を表示します。
<b>show vrf [<i>vrf-name</i>] [interface <i>interface-type slot/port</i>]</b>	インターフェイスの VRF ステータスを表示します。

## VRF の設定例

次に、VRF Red を設定して、その VRF に SNMP サーバを追加し、VRF Red に OSPF インスタンスを追加する例を示します。

```
vrf context Red
snmp-server host 192.0.2.12 use-vrf Red
router ospf 201
interface ethernet 1/2

vrf member Red
ip address 192.0.2.1/16
ip router ospf 201 area 0
```

次に、VRF Red および Blue を設定し、各 VRF に OSPF インスタンスを追加して、各 OSPF インスタンスの SNMP コンテキストを作成する例を示します。

```
vrf context Red
vrf context Blue
```

## VRF の設定例

```

feature ospf
router ospf Lab
vrf Red
router ospf Production
vrf Blue

interface ethernet 1/2
vrf member Red
ip address 192.0.2.1/16
ip router ospf Lab area 0
no shutdown

interface ethernet 10/2
vrf member Blue
ip address 192.0.2.1/16
ip router ospf Production area 0
no shutdown

snmp-server user admin network-admin auth md5 nbv-12345
snmp-server community public ro

```

### 各 VRF の SNMP コンテキストの作成

```

snmp-server context lab instance Lab vrf Red
snmp-server context production instance Production vrf Blue

```

この前の例で、VRF Red の OSPF インスタンス Lab の OSPF-MIB 値にアクセスするには、SNMP コンテキスト **lab** を使用します。

次に、デフォルト以外の 2 つの VRF 間、およびデフォルト VRF からデフォルト以外の VRF にルート リークを設定する例を示します。

```

feature bgp
vrf context Green
ip route 33.33.33.33/32 35.35.1.254
address-family ipv4 unicast
route-target import 3:3
route-target export 2:2
export map test
import map test
import vrf default map test
interface Ethernet1/7

vrf member Green
ip address 35.35.1.2/24
vrf context Shared
ip route 44.44.44.44/32 45.45.1.254

address-family ipv4 unicast
route-target import 1:1
route-target import 2:2
route-target export 3:3
export map test
import map test
import vrf default map test
interface Ethernet1/11
vrf member Shared
ip address 45.45.1.2/24
router bgp 100

address-family ipv4 unicast
redistribute static route-map test
vrf Green
address-family ipv4 unicast

```

```

redistribute static route-map test
vrf Shared
address-family ipv4 unicast
redistribute static route-map test
ip prefix-list test seq 5 permit 0.0.0.0/0 le 32
route-map test permit 10
match ip address prefix-list test
ip route 100.100.100.100/32 55.55.55.1

nexus# show ip route vrf all
IP Route Table for VRF "default"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
55.55.55.0/24, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 55.55.55.5, Lo0, [0/0], 00:07:59, direct
55.55.55.5/32, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 55.55.55.5, Lo0, [0/0], 00:07:59, local
100.100.100.100/32, ubest/mbest: 1/0
*via 55.55.55.1, [1/0], 00:07:42, static

IP Route Table for VRF "management"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
0.0.0.0/0, ubest/mbest: 1/0
*via 10.29.176.1, [1/0], 12:53:54, static
10.29.176.0/24, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 10.29.176.233, mgmt0, [0/0], 13:11:57, direct
10.29.176.233/32, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 10.29.176.233, mgmt0, [0/0], 13:11:57, local

IP Route Table for VRF "Green"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
33.33.33.33/32, ubest/mbest: 1/0
*via 35.35.1.254, [1/0], 00:23:44, static
35.35.1.0/24, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 35.35.1.2, Eth1/7, [0/0], 00:26:46, direct
35.35.1.2/32, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 35.35.1.2, Eth1/7, [0/0], 00:26:46, local
44.44.44.44/32, ubest/mbest: 1/0
*via 45.45.1.254%Shared, [20/0], 00:12:08, bgp-100, external, tag 100
100.100.100.100/32, ubest/mbest: 1/0
*via 55.55.55.1%default, [20/0], 00:07:41, bgp-100, external, tag 100

IP Route Table for VRF "Shared"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
33.33.33.33/32, ubest/mbest: 1/0
*via 35.35.1.254%Green, [20/0], 00:12:34, bgp-100, external, tag 100
44.44.44.44/32, ubest/mbest: 1/0
*via 45.45.1.254, [1/0], 00:23:16, static
45.45.1.0/24, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 45.45.1.2, Eth1/11, [0/0], 00:25:53, direct
45.45.1.2/32, ubest/mbest: 1/0, attached
*via 45.45.1.2, Eth1/11, [0/0], 00:25:53, local
100.100.100.100/32, ubest/mbest: 1/0

```

**VRF の設定例**

```
*via 55.55.55.1%default, [20/0], 00:07:41, bgp-100, external, tag 100  
nexus(config) #
```

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。